

私の家は、出石町鳥居です。鳥居地区は、出石町の中でも特にひどい被害を受けた地区です。

台風二十三号が来た日は、学校が休みでした。お姉ちゃんも楽しく家で遊んでいたのも夕方まで。強い風、朝から降り続けていた雨を見て、一階のものを二階に運び始めたのは夕方でした。結局、その夜は親せきの家に避難をさせてもらいました。

次の日の朝、たくさん木が倒れていました。木が倒れているなんて家はどうなっているんだらう？と不安な気持ちで家に向かいました。提防から家を見たとき、その風景にびっくりしました。家の周りが海になつていたからです。3日後に水が引き、家の中に入るとときははもつとおどろきました。げんかんがゆかにはい、はいの泥、それまでの私の家とは全くちがうものに見えました。家が浸かったら、こんなに悲しいのかと思いました。それから毎日が片付けでした。特に家には

まっただ泥をとるのは大変で、一日では終わ  
りませんでした。毎日疲れたことを今でも覚え  
ています。

そして、あれから一年。私たちは台風が来  
る前と同じようにくらしていきます。床上一  
九十cm 水に浸かった私の家もきれいになりま  
した。このようにもとの生活にもどれたのは  
周りのたくさんの人たちの支えがあったから  
です。私の家にはたくさんの方の知らない人が泥  
をとりに来てくれました。田んぼ・道路など

小坂もボランティアの方々の大きな力でと  
の小坂にもどりました。学校に行つたとき、  
みんなが「大丈夫だった？」と心配してくれ  
ていました。たくさんの方の温かい気持ちか  
れを  
勇気づけてくれました。

台風二十三号、悲しい思い出がたくさんあ  
るけど、決してそれだけではありません。だ  
から忘れてはいけません。